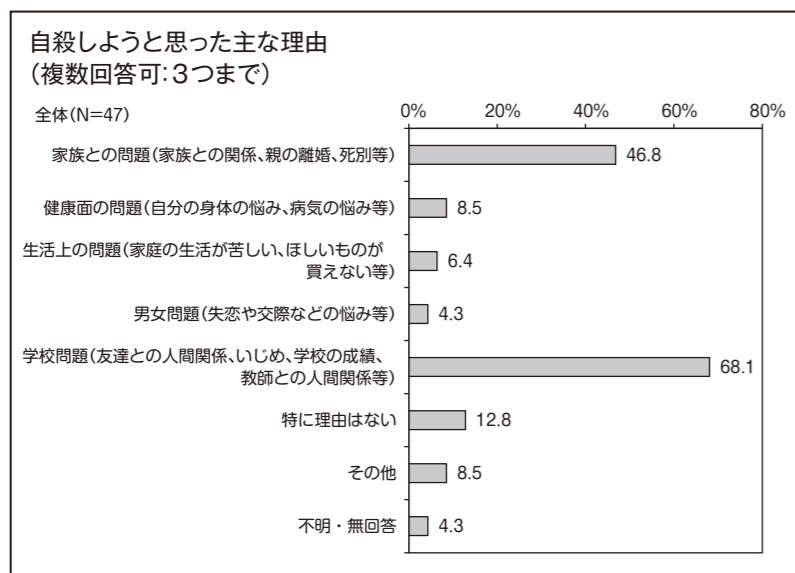
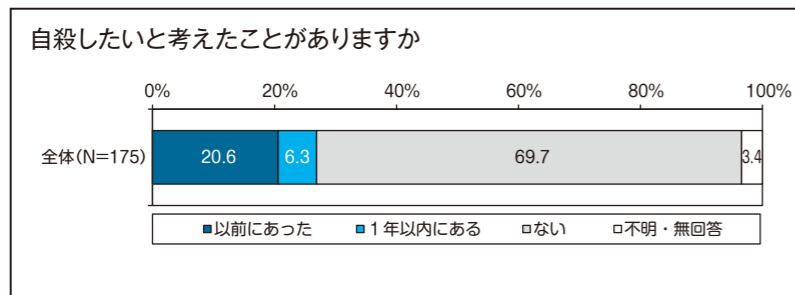
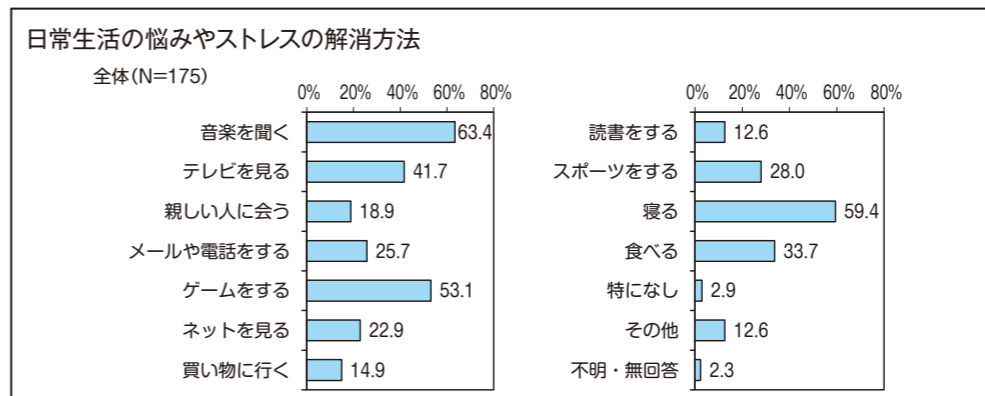
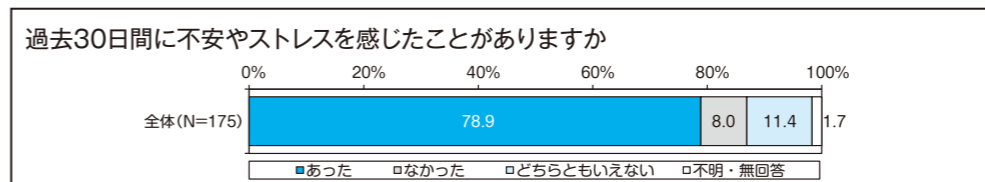


中学生のアンケート結果

次に、中学生向けアンケートの結果です。日常的に不安やストレスを感じている中学生が多く、「寝る」「音楽を聞く」「ゲームをする」など様々な方法で悩みやストレスを解消していますが、その多くは一人で行うものになっています。

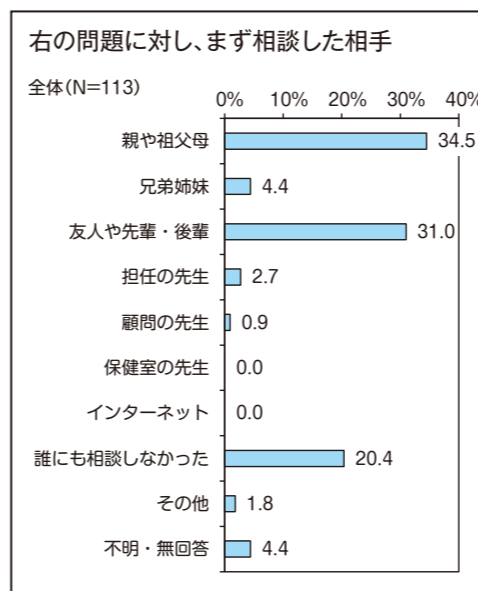
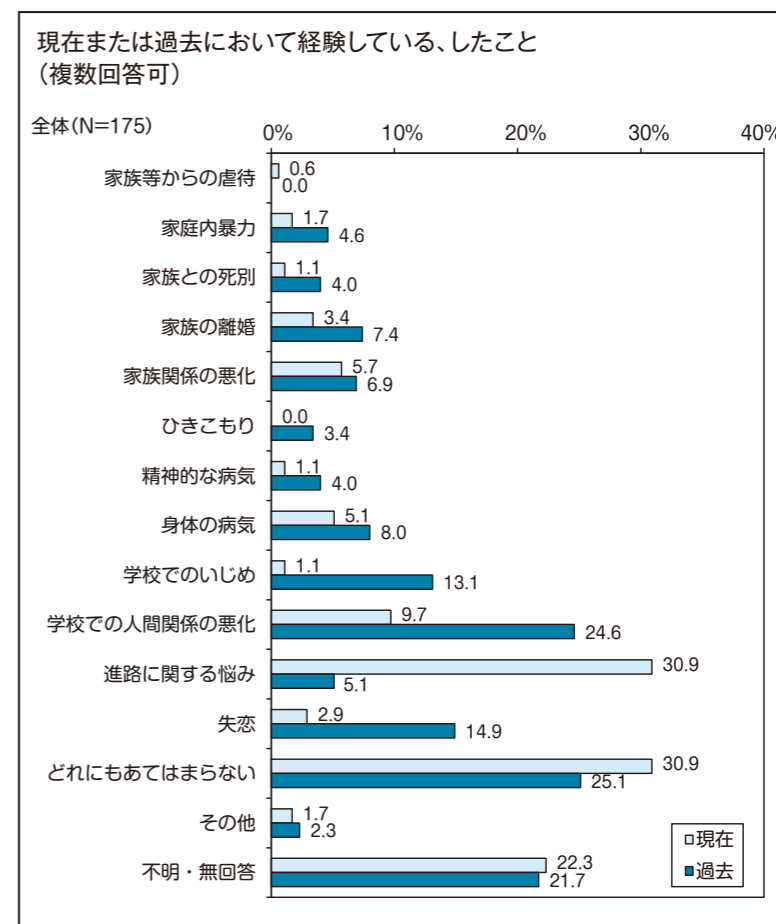


自殺したいと考えたことのある方は、全体の「26・9%」に及びます。また、その多くが、学校問題や家庭問題という、日常の居場所となる場所での出来事が理由になっていることがわかりました。また、アンケートでは、「自殺したいと思ったときの相談相手」として、「誰にも相談しなかった」と答えた方が「78・7%」ありました。各学校や家庭、また地域で子どもを見守り、子ども達にSOSの出し方を教えるだけでなく、周囲の大人が気づき、声をかけられる環境が必要になってきます。

困難な課題に直面したとき、「親や祖父母」「友人や先輩・後輩」に相談する方が多い反面、「誰にも相談しなかった」中学生も「20・4%」あり、困ったときに相談できる環境づくりや、本人が周囲の大人にSOSが出せる教育が必要になってきます。

一般住民自由回答(一部抜粋)

- 身近で何でも相談できる場所をつくり、それを周知すべき
- 自殺がなくなることは良いことなので、対策を進めてほしい
- 難しい問題だが、減らすことは可能。協力できる範囲で、参加していければと思う。
- 自殺を考えている人は視野が狭くなっており、適切な支援制度にまで目が向かないので、地域はもとより、家族・友人・職場での支え合いが大切だと思う。



中学生自由回答(一部抜粋)

- 自殺が起こらないように、みんなが居やすい教室をつくるのが大切。
- 教育相談をもう少し増やせば、個人で先生と話さなくても不審に思われずに話ができる。

- 悩みを抱える人の居場所づくりが必要。
- アンケート調査だけで終わるのではなく、結果を町民の目に見える形でフィードバックし、それを基に対策を講じることで自殺問題の改善につなげてほしい。

- いじめを無くすためには、周囲の行動が大切だと思う。
- 時間はかかるが、一人ひとりカウンセリングをしたらいい。
- 自殺したいと思ったことは何度もある。
- 何かあった時は、誰かに相談した方がいいと思った。
- この調査は名前を書かなくてよいので、回答しやすかった。このような活動で、自分の気持ちを打ち明け、自殺防止に繋がると思う。私も少し、気が楽になった。
- 本当に自殺を無くしたいと考えているのですか？町での学校の評判を気にしているだけではないか。行政は町のことを中学生にも聞くべきだと思う。
- いじめを無くすことが一番だと思う。いじめられていない人は、とても嫌な気持ちになるし、不登校や自殺の原因は全て、いじめが始まり。いじめを無くすことで、自殺や不登校を減らせる。
- 僕は、自殺したいと言われたら、「嘘やろっ」と思います。

愛荘町では、今回のアンケート調査結果や今までの取り組みを通じて、誰もが生きがいや希望を持って生きることができるよう、心ふれ愛、いのちを支えるまちあいしよを目標として、今後もまちづくりを推進していきます。

健康推進課 ☎ 42-4887